



【鶴舞・千種エリア】

「ミズまつり」等を通じた産学官民連携の都市型実証フィールド

募集中の実証テーマ・キーワード

本フィールドでは、主に以下のテーマ・先端技術に関連するソリューションを募集しています。

📍 本実証は単なるイベント内での技術検証に留まらず、愛知県内他エリアへの横展開(波及)を見据えたショーケースとなることを目指しています。スケールアップを視野に入れた意欲的な提案をお待ちしています。

AIカメラ・人流分析

スマートごみ箱・IoT

AR/VR・都市型水害シミュレーション

VPS・回遊促進

デジタルツイン・防犯見守

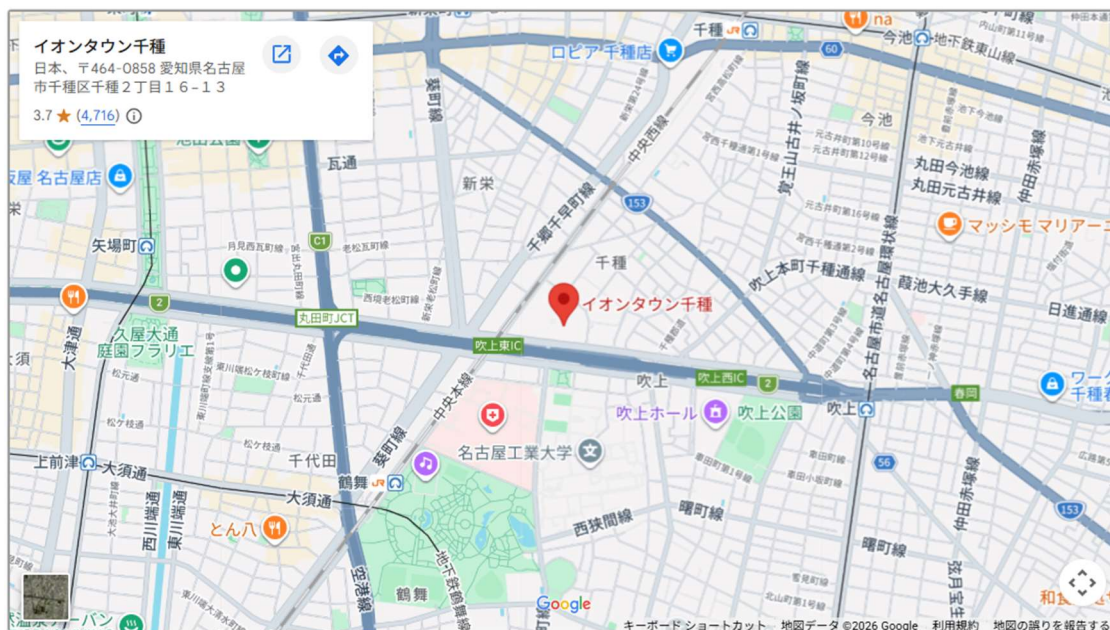
モビリティ・MaaS

- テーマ 1:【来街者データの可視化】人流分析
- テーマ 2:【イベントごみ問題のDX】スマートごみ回収・リサイクル
- テーマ 3:【都市型水害の疑似体験】災害・気候リスクの可視化
- テーマ 4:【多世代の交流・回遊促進】VPS・ARを活用したまちづくり
- テーマ 5:【安心・安全なまちづくり】AIカメラ等による防犯・見守り
- テーマ 6:【アクセス性向上】新たな移動手段の模索

▶ [各テーマの背景・課題の詳細は本資料下部をご確認ください](#)

基本情報

住所・会場	<p>以下の2か所を想定</p> <p>① イオンタウン千種 周辺 (愛知県名古屋市中千種区千種2丁目16-13 周辺)</p> <p>② 若宮高架下 (愛知県名古屋市中区千代田5丁目～昭和区鶴舞1丁目 周辺)</p>
アクセス	<p>「名古屋駅」から電車+徒歩で約20分 (JR中央本線・地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」から徒歩約10分)</p>
面積・規模	<p>イベント対象エリア広場、および周辺商業施設・公道 ※大型イベント「ミズマツリ」開催時は3,000人規模の来場を想定</p>
実証想定時期	<p>2026年7月11日(土) 開催予定の大型イベント「ミズマツリ」を中心とした短期・集中的な実証を想定 ※事業決定後速やかにマッチングを行い、実証準備を進めるスケジュールとなります。</p>
設備・インフラ	<p>電力使用量が大きくない場合に限り電源設備が提供可能</p>
人員・体制	<p>鶴舞・千種エリアマネジメント協議会により適宜支援を実施</p>
留意事項	<p>本イベントは天候等により延期または中止となる場合がございます。 その場合には、別日程・別フィールドでの実証に変更となります。</p>



事業・フィールド概要

当フィールドは、鶴舞・千種エリアマネジメント協議会が中心となり、名古屋工業大学をはじめとする産学官民が連携してまちづくりを推進しているエリアです。



特に、2026年7月11日に開催予定の地域主導の大型イベント「ツルマイ・チクサ ミズまつり」は、千種アーススクエアを中心とした千石学区・鶴舞公園の

周辺地域を対象に、公道や公園を大々的に活用して開催されます。日常の空間を非日常のアクティビティ空間へと変化させ、3,000人規模の来場者を集める、地域の魅力向上と住みよいまちづくりを目指すイベントです。

本プロジェクトでは、このミズまつり開催時の熱気や多数の人流をいかし、スタートアップの先端技術を実社会（リアルなイベント空間や公道エリア）で検証する絶好の実証フィールドを提供します。

※なお、本イベントは天候等により延期または中止となる場合がございます。

その場合には、別日程・別フィールドでの実証に変更となりますのでご注意ください。

フィールドの魅力



① 大規模なイベント実証

3,000人規模が集まる「ミズまつり」等の非日常空間を活用し、短期間で高密度かつ大量の実証データを取得・検証することが可能です。



② 産学官民連携の強力なサポート

大学（名工大）の知見や、地元企業のリソース（施設提供等）、STATION Ai との連携等、新しい技術導入をスピーディに支援する体制が整っています。



③ 多様な層への受容性検証

子ども連れのファミリー層から若者、高齢者まで、幅広い生活者がターゲット。UI/UX検証やエンドユーザーの生の声・反応をダイレクトに収集できます。

課題・興味のある実証テーマ

当エリアでは、以下の6つのテーマに基づくデジタル技術（AI、IoT、XR、デジタルツイン等）の提案を求めています。

テーマ1：【来街者データの可視化】人流分析

【背景・課題】

ミズマツリ等の都市イベントでは、来場者数や回遊状況を定量的に把握する仕組みが不足しています。混雑状況や滞留ポイントが可視化されておらず、安全管理や回遊促進の改善が経験則に依存している状況です。



【求めるソリューション・期待すること】

鶴舞・千種エリアにおいて、人流データを活用した「まちづくりの高度化」に貢献する技術提案を求めています。プライバシーに配慮したカメラやセンサー技術によるリアルタイムな混雑・滞留の可視化技術等を想定しています。

※屋外・仮設環境（一時的な電源・通信網の制約等）でも稼働しやすいソリューションや、昼夜の環境変化に対応できる技術提案を特に歓迎します。

AI カメラ

人流分析

IoT センサー

テーマ2：【イベントごみ問題のDX】スマートごみ回収・リサイクル

【背景・課題】

屋外イベントでは、ごみの分別不足や回収タイミングの遅れ等により、会場環境の悪化や運営スタッフへの負担が発生しています。ごみの排出量や分別状況をリアルタイムで把握する仕組みがなく、効率的な回収や資源循環の取り組みが困難です。



【求めるソリューション・期待すること】

環境配慮型イベントやサステナブルなまちづくりを推進するため、IoTセンサーによるごみ蓄積量の可視化や最適回収ルートの提示、AIによる自動分別ガイド等、ごみ問題のDX化を図る技術を求めています。

※多様な来場者が直感的に分別できるUI/UX設計や、現場の運営スタッフがスマートフォン等で即座に状況を把握できる「運用性の高さ」を考慮した提案を歓迎します。

IoT

スマートごみ箱

サステナビリティ

テーマ3：【都市型水害の疑似体験】災害・気候リスクの可視化

【背景・課題】

気候変動の影響により、都市部でも豪雨による浸水や水害リスクが高まっています。しかし、市民が水害リスクを実感持って理解する機会は限られています。鶴舞公園周辺は水辺空間があるため、水辺環境と防災意識を結びつけた啓発が重要視されています。



【求めるソリューション・期待すること】

AR や VR 等の XR 技術を活用し、スマートフォン等で「都市型水害」を疑似体験できるコンテンツ等、市民の防災意識向上やリスク啓発に直結するデジタルソリューションの提案を求めています。

※IT リテラシーが低い高齢者や子どもでも手軽に体験できるコンテンツ設計や、イベント時の「一過性の体験」から「日常の備え」への行動変容を促す仕掛けを期待します。

AR/VR (XR)

防災・減災

シミュレーション

テーマ4：【多世代の交流・回遊促進】VPS・AR を活用したまちづくり

【背景・課題】

鶴舞・千種エリアにおいて、地域の歴史的魅力や未来のまちづくりの姿を効果的に発信し、多世代の交流や回遊を促進する仕組みが不足しています。また、デジタル技術を活用したまちづくりにおいては、IT 機器に不慣れな高齢者層やファミリー層の参加ハードルが高いことが課題となっています。



【求めるソリューション・期待すること】

VPS 技術等を用いた AR 体験を主軸としつつ、フィジカルなサインや散策マップを併用することで、幅広い層が参加できる「回遊型デジタル・コミュニティ」の創出につながる技術提案を求めています。過去と未来の写真を掲示した物理看板と AR の連動（Phygital サイン）や、紙のマップと AR マーカーを組み合わせたデジタルスタンプラリー、住民のアイデアをその場で AR 空間上に簡易モデリング・実装する参加型のワークショップ等を想定しています。

※最新の専用アプリや機器だけでなく、一般的なスマートフォン（Web ブラウザ等）で幅広い層が参加できる技術や、現地への来訪インセンティブを高めるゲーミフィケーションの提案を歓迎します。

VPS・AR

回遊促進

コミュニティ形成

テーマ 5 : 【安心・安全なまちづくり】AI カメラ等による防犯・見守り

【背景・課題】

夜間等の安全・安心を確保し、QOL 向上や回遊を促進するための防犯・見守り体制の強化が求められています。既存の防犯設備や人的リソース等の限定的な資源だけではエリア全体を効率的にカバーすることが難しく、住民や来街者に安心感を与えるセーフティ・エリアの構築が課題となっています。



【求めるソリューション・期待すること】

AI カメラやデジタルツイン技術と、商業施設等のフィジカルな拠点・人的リソースを有機的に結合させ、デジタルによる『見えない見守り』と、人やサインによる『見える安心』を重ね合わせた技術提案を求めています。リアルタイムの人流や照度データを反映した推奨ルートの提示や、異常検知時の通知による現場スタッフへの「データ駆動型パトロール」の指示、サイネージ等で見守り実績データを公表し夜間外出の心理的障壁を下げる取り組み等を想定しています。

※既存の防犯設備等の限定的なリソースを補完する技術や、市民に「監視されている」という不快感を与えずに「守られている」という安心感を提供するアプローチを重視します。

デジタルツイン

AI カメラ

防犯・見守り

テーマ 6 : 【アクセス性向上】新たな移動手段の模索

【背景・課題】

ミズマツリの会場となる「イオンタウン千種 周辺」ならびに「若宮高架下」には、最寄りの駅となる鶴舞駅から徒歩で約 10 分、千種駅からは約 15 分程度を要し、アクセスの観点においては利便性向上の余地がある状況です。



【求めるソリューション・期待すること】

次世代モビリティを用いて駅からミズマツリ会場へのアクセス性を向上させる新たなモビリティに関する実証実験や、既存交通の利用を効率化する MaaS 等のソリューションの活用等を想定しています。

※一時的なイベント時のアクセス向上に留まらず、日常的な回遊性向上にも寄与するアイデアや、幅広い層が手軽に利用できる UI/UX を考慮した提案を歓迎します。

モビリティ

MaaS